

4. 出生前診断

出生前診断(1)

- 出生前診断の方法
 - 超音波検査、羊水検査、トリプルマーカータストなど
- 受精卵遺伝子診断
 - 受精卵遺伝子診断に反対している団体も多くある。たとえば、日本ダウン症協会
 - 倫理的課題: 優生学・優性思想への接近

39

出生前診断(2)

- 胎児超音波検査におけるNTの計測
 - NT (nuchal translucency): 胎児後頸部にある皮下の液体貯留像。
- 倫理的課題
 - 医療情報を開示すべきという価値規範
 - 選択的中絶を助長すべきではないという価値規範
 - 「知る権利」と「生命の尊厳」の衝突

40

出生前診断(3)

- 妊婦の血液のDNA解析
 - 胎児がダウン症であるかどうか99%の精度でわかる。
 - 2012年9月、国立成育医療研究センター(東京)など国内約10施設が始める。

41

優生学(eugenics)

- 19世紀の「社会ダーウィニズム」が20世紀の優生学の先駆けとなった。社会ダーウィニズムとは、「生存競争」「適者生存」といった進化論的キーワードが社会における人間に当てはめられた考え方である。
- 優生学は進化論と遺伝の原理を人間に適用して、人間の自然的運命を改良しようとした。
- キリスト教的救済史観の世俗化。

42

優生学の展開

- ナチズムの人種優性政策
 - 安楽死の対象は「非生産的」人間すべてに向けられた。
 - 精神病患者、身体障害者、病人、同性愛者、浮浪者、売春婦、不満分子、常習飲酒者、犯罪者、老人

43

強制不妊手術の事例

- スウェーデン：1935～73年にかけてスウェーデン政府が約6万人に不妊手術を強制していた事実が明らかになった(1997年8月)。
- 日本：1996年まで施行されていた優生保護法によって、遺伝病患者や障害者ら少なくとも約1万5000人が、本人の同意がないうまま不妊手術(優生手術)をうけさせられていた。

44

優生学の今後

- 「自己決定」であれば優生学ではないのか？
 - 英国では、出生前診断を公費負担することによって、障害者にかかる福祉コストを激減させている。
- 女性の自己決定権の中に「子どもの質」の選択を含むことができるのか？

45

5. 遺伝子、クローン技術

- 遺伝子、**DNA**が大衆文化の中に定着
 - 天才遺伝子、暴力遺伝子、不倫遺伝子？
 - キリスト教の魂に相当する役割を果たしている。
- クローン人間の可能性
 - クローン人間作製サービス: **clonaid**
- 倫理的課題
 - 人間の「かけがえのなさ」と現代社会の特質としての「代替可能性」

46

遺伝子の解明がもたらすこと

1. 人間は生まれたときから平等ではないことを明確に語られる。
2. 「内なる自然」としての人間の身体がバイオテクノロジーのフロンティアとされる。
3. DNAを操作することによって人間性そのものを操作することが可能となる。
4. 病気の概念が変容する。

47